

講義名	中国語 A			授業形態	
担当教員	白根 理恵	開講期・曜日・時限	後期 火曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

主題と概要

この授業では中国語の基礎を学びます。
中国語はよく「発音よければ半ばよし」と言われます。発音が会っても通言ではありません。中国語学習の最初の目標は、正しく発音ができ、聞き取れ、ピンイン（中国語音のローマ字表記）がきちんと読めることです。私たち日本人にとって中国語学習は、漢字を理解できることが大きなメリットですが、逆にデメリットになることもあります。たとえば、漢字を見るとなんとなく中国語を理解した気分になり、発音を大事にしないということがよく見られます。それでは中国語を真にマスターすることはできません。中国語を音でキャッチし、理解できるようになりたいものです。
テキストでは基本的な活用度の高い表現を学びます。半年の学習でも、けっこう使える言い回しを学ぶことができます。本学には中国からの留学生がたくさん在籍しており、中国語がいつでも使える恵まれた環境にあります。学んだ中国語をどんどん使って、留学生と積極的に交流してほしいと思います。

到達目標

1. 中国語学習を進めていく上での基礎的知識（発音、ピンイン表記）を身につけられるようになる。
 2. 基本的な中国語を聞き、質問や状況に応じた応答ができるようになる。
 3. 基本的な文の意味を理解でき、書くことができるようになる。
- ・オンラインでの受講では、到達目標を達成することが難しい科目であるため、オンデマンドでの開講はしない。但し、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生への対応については学校の指示に従う。

提出課題

必要に応じて課題提出を求めることがあります。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

次の授業で必ず解答と解答を行った形に記載した形で解答を示す場合もあるし、時間がある場合問題形式を変えて復習させるときもある。
どちらにせよ、課題のフィードバックであることを伝えるので学生側の混乱はないと考える。

評価の基準

評価の基準
平常点 30%。
学期末試験 70%。
平常点は小テスト（10%）、課題提出（10%）、授業態度（10%）によって決まる。
授業出席日数が3分の1を超えたと学期末試験を受けることができない。
模定試験の合格及び出席率は評価基準に入れない。

履修にあたっての注意・助言他

自己管理を心がけてほしい。
質問は大いに歓迎。
質問はメール等でしてほしい。
他の学生も疑問の解消を共有できるようにしている。
テスト直前にまとめプリントを必ず配布している。
文法のみまとめだが、論の整理に役立ててほしい。

教科書

.使用しない。					
---------	--	--	--	--	--

参考図書

その他

必要に応じて配布します。教材は毎回配布。

授業計画

1. 第1課 半音音・声調・子音・軽声
2. 第2課 複合母音・鼻母音・発音のまとめ
3. 第3課 何月何日・何時
4. 第4課 あの名前は・どちらの大学
5. 第5課 だれ？なに？これは-です
6. 第6課 いる・ある
7. 第7課～第9課のまとめ
8. 中間試験
9. 第7課 どこにいる・AそれともB
10. 第8課 どれくらいかかる・-するのが好きです
11. 第9課 いくら・ふりもこです
12. 第10課 -したい・どこで
13. 第11課 -できる・-していい
14. 第12課 -している・-したことがある
15. 第7課～第12課のまとめ
授業の進度はクラス状況に合わせて適宜調整します

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

復習を推奨しています。
主に文法と漢字の復習、文章の暗記で週3時間程度。
これ以外に発音練習用の暗記文章が用意されているがこれは週1時間程度の時間が必要です。
週4時間ほどの準備学習です。
それ以外に課題が若干あるが、メインは上記のものです。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

中国語の4技能（聞く、話す、読む、書く）について実用的かつ基礎的な語学力を習得するとともに、中国の社会や文化について理解する資質・能力を身につける。
この科目は1年生から履修可能な外国語関連科目で、中国語の基礎力の向上を図るとともに、グローバルの視点から海外の社会や文化をより広く深く学ぶことができます。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考

教材プリントを毎回配布